



ippo(いっぽ)

【全校の研究テーマ】 一人一人が学んだことを実感し、自分から行動する姿を目指して
～各教科等の指導を支える自立活動の視点から～

今回は中学部分科会と講演会の内容について紹介します。

中学部分科会より

協議テーマ①目指す姿が授業のなかでどのように表れていたか

【一人一人(特に抽出生徒)が学んだことを実感し、
気付いて考えて取り組む姿】

②そのための手立て(学習活動、場の設定、教師の働き掛け)はどうだったか

〈ワークショップ〉

★授業説明から★

- ・みどりっこ夏まつりでは、かき氷屋を開店した。お客さんをもてなす経験を通して達成感を感じ、「次はこんなお店を開きたい。」と生徒たちから意見が自然に出てくるようになった。
- ・パート1では、ゲーム屋を開店し、中1を招待した。自分の役割をこなすことに一生懸命になってしまい、友達やお客さんまで意識できなかった。本時では友達の様子を意識して協力して活動してほしいと思い、めあてを「係りの順番を意識してゲーム屋を頑張ろう」とした。
- ・生徒たちにお店に招待したい人を尋ねたところ、「ことぶき荘清掃で知り合った方々。」という意見が出され、総合的な学習の時間でお世話になった町内会の方を招待することにした。
- ・開店の様子を動画で見たり、一人一人が活躍できるように「誰が話したら次は誰」を確認して練習したりすることで、生徒たちが友達を意識して協力したり、自信をもって自分の係に取り組んだりする姿が見られるようになった。
- ・「お客さんのために」という視点を常に意識できるように、場面を捉えて「お客さんはどう思うか。」を問いかけることで、「困ると思う。」「嬉しいと思う。」という反応が返ってくるようになり、お客さんへの意識も高まった。
- ・生徒同士で進めることができるように、教師は見守り、生徒が困っている時にアドバイスをするようにしたことで、自分たちの力でお店を成功させようとする姿が見られるようになり、自信が高まった。



★協議から★

- ・繰り返しの活動や生徒の実態に合った活動により、一人一人が自分の役割を果たし、友達の役割まで理解して取り組んでいた。
- ・教師が見守ったり、支援を最小限にしたりすることで生徒の主体的な姿が引き出され、自分たちでゲーム屋を作り上げたという達成感があったように見えた。一人一人が活躍できるような場や役割が設定されていた。
- ・担当の教師からの個別の評価や中3の生徒からの即時評価が分かりやすくて良かった。
- ・よりお客さんを意識できるように、お客さんに合わせてゲーム内容を工夫する必要がある。また、様々なお客さんにも自信をもって対応できるように、経験を応用させたり、自己評価や他者評価を活用してレベルアップしたりすることが大切である。
- ・めあて「係りの順番を意識してゲーム屋を頑張ろう」だったが、めあてに対する振り返りが必要だったか。



①子ども理解シートについて

- ・自立活動の解説にある流れ図を基にした子ども理解の進め方に取り組み、一人の子どもに対して時間をかけて複数の目で確認し捉え直しをすることが大事だと感じている。これまで指導を継続していることの捉え直しをしたり、障害特性や発達段階を押さえて整理し違った見立てが出てきたりすることが望ましい。
- ・抽出生徒の子ども理解シートを作成し、再検討した結果、環境が整っていれば次の段階へ進めると判断し、目標をステップアップすることもできた。自立活動の今必要となる内容を判断し、次のステップへ行けるか、または継続なのかをチェックしていくことが大事だと思う。
- ・担当している教師が変わっても担当者が持っているビジョンを引き継いでいくために子ども理解シートは大切である。今どこを目指していて、次にどんな課題があるのかを子ども理解シートに記載していけば、より活用できるものとなる。

②授業について

- ・本時は役割を意識して取り組むことに主眼が置かれていたが、自分のことだけでなく、各々の役割や他の係りとつながったときにゲーム屋として完成するという意識が生徒たちの中にあった。
- ・抽出生徒への友達からの声掛けのタイミング、教師のフィードバック、的が当たれば落ちるといった分かりやすい教材の準備により、抽出生徒は集中して取り組んでいた。こういった配慮点についても指導案上に残していくことで財産となる。
- ・個別評価や即時評価、3年生からの評価など、様々な評価が全体としてどう結びついて生徒が学んだこととして実感できるようになるのかを考えていく必要がある。
- ・連携プレーでゲーム屋を成功させたことを、それぞれのゲーム屋で喜び合えたらもっと手応えとして感じられたのではないかなと思う。

全体会Ⅱ講演 「自立活動の視点から見る生活単元学習」

茨城大学教育学部 教授 新井英靖氏

実際の授業場面を取り上げて御指導いただきました。(一部抜粋)

【小学部】

- ・児童が相手を意識して言葉を使っているのか、相手がいなくてもつぶやいていたのかどちらの捉え方で捉えるかで児童への関わり方が変わってくる。コミュニケーションとして発展させるためには、その発言をどう捉え、どう返すと他者とのコミュニケーションにつながるのかを考えていく必要がある。独り言を会話にして人とやり取りできると生徒は生きやすくなる。自分の世界に相手が入り込むが、好きな活動なら受け入れて活動できる。
- ・一つのことに接続して離れられなくなることを過剰接続というが、これは強いこだわりのように捉えられる。接続を切断して別に接続する力を付ける。遊びの中で切断と接続を勉強していく必要がある。

【中学部】

- ・コミュニケーション力のどこをねらうのかを明確にすることで生徒と意図的に関わることができる。
- ・集団を意識し他者との関係の中で生活できるようになるためには心地よい遊びをたくさん経験させる。日常生活を心理的に安定して過ごすことが大事。活動と休息を上手に組み合わせて日常生活は成り立っているため上手に切り替えができることも大切である。聴覚過敏も安全性が高まると軽減する。

【高等部】

- ・ロールプレイの場面で、抽出生徒ではないが生徒Cの行動に注目した。友達からの声に対して納得のいかない様子が見られたが、自分で気持ちをどうコントロールするか、イライラした時の対処方法を育てることが重要である。他者を受け入れる力を伸ばし、自分の良さを認めてくれる人もいることを学ぶ。生徒の自信や人間関係がどう変化してきたか、どのような見通しで指導していくのかを整理することが大切である。
- ・自立活動において自己分析表を作り、自分の得意、苦手なことを引き出し、共感しながら取り組むやり方もある。
- ・実態に合わせて一人一人の自立活動の課題を整理して取り組んでいくことが大切である。障害特性をどう捉え、どう関わっていくかを卒業までの三年のスパンでカリキュラムを整理することが大切である。